

海・浜辺の保全の取り組みを行うにあたり、参考となる資料一覧です。保全の取り組みを計画・実施される際にご参考下さい。

海・浜辺の保全の取り組みに参考となる資料一覧

(年代順)

参考資料名	発行元 発行年	概要
海岸景観形成ガイドライン	国土交通省 農林水産省 2006年2月	平成15年「美しい国づくり政策大綱」の一環として、有識者による「防災・利用と調和した海岸の景観形成のあり方に関する検討委員会」がとりまとめたもの。行政だけでなく、地域住民、海岸利用者、専門家等にも広く活用できるよう作成。良好な海岸景観の形成を図ることを目的として、海岸と生活との関わりを見直し、海岸の潜在的な魅力や課題を発見し、地域の価値向上を図るための海岸の整備や取り組みの方策を記載。理念編は景観検討の必要性や捉え方の基本認識について、実践編は「調査」⇒「構想・計画」⇒「設計」⇒「施工」⇒「景観形成に向けた体制」について段階を追って構成。
海岸漂着危険物ハンドブック	農林水産省農村振興局・水産庁 国土交通省河川局・港湾局 2009年7月	海岸漂着危険物の危険性を子供にも分かりやすいように項目ごとに分けて写真と図で解説。危険物シンボルマークや種別表も掲載。
海岸漂着危険物対応ガイドライン	農林水産省農村振興局・水産庁 国土交通省河川局・港湾局 2009年7月	被害が発生しやすく、海岸漂着危険物対応にあたって混乱が生じやすい危険物漂着時において海岸管理者が行うと想定される初動対応にできるようまとめたガイドライン。参考資料として海岸漂着危険物の事例や対応事例、漂流・漂着ゴミに関連する補助金に関する情報も紹介。
海岸清掃事業マニュアル	環境省 2011年3月	海岸清掃を企画する海岸管理者等の行政機関が容易に適切な手法を用いて海岸清掃を進めていくことができるよう、効果的な海岸清掃方法をマニュアルとして作成。平成19～22年度に実施した漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査等で得られた知見を整理し、容易に適切な手法で用いて進めていくことができるようにとりまとめている。 本編と資料で構成。本編では海岸管理者等が事業として海岸清掃を実施するために必要な準備、実際の清掃作業及び清掃作業終了後の事後作業、技術的事項と費用の積算方法等について記載。資料編では事業として海岸清掃を行う海岸管理者等の参考となるように、海岸清掃事業の実例、清掃対象の海岸の特性、漂着ごみの種類、採用した回収・搬出の方法等を紹介。
自然環境保全基礎調査	環境庁 海岸(海辺)の調査は右記の通り	一般に「緑の国勢調査」と呼ばれ、陸域、陸水域、海域の各々の領域について国土全体の状況を調査。このうち藻場・干潟関連は第2回調査(1978)、第3回調査(1984)、第4回調査(1993)、第5回調査(1996)に実施。
瀬戸内海の家浜植物	大阪市立自然史博物館 2017年7月	瀬戸内海の家浜植物の入門書として作られたミニガイドブック。 瀬戸内海沿岸の家浜植物と内陸に生育するが海浜でもよく見られる植物、計41種を、「①科名 ②和名および ③学名 ④国内分布 ⑤開花時期 ⑥レア度 ⑦生活型 ⑧在来種・外来種」の定型項目と文章と写真で紹介。また塩湿地の植物13種も簡単に紹介。

参考資料名	発行元 発行年	概 要
海ごみ情報サイト https://www.seto.or.jp/etc/umigomi/	瀬戸内海環境 保全協会	瀬戸内海における海洋ごみ対策のための適切な社会システムを実現することを目的にした Web サイト。 平成 18 年度から 3 か年、(独)産業技術総合研究所中国センター、鹿児島大学水産学部、(公社)瀬戸内海環境保全協会、いであ(株)により、瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けた産官学による共同研究「海洋ごみ対策の確立に向けた情報支援システムの構築に関する研究」でわかったこと、その結果から考えられることをとりまとめている。
生物共生型港湾構造物の整備・維持管理に関するガイドライン	国土交通省港 湾局 2014 年 7 月	行政側だけでなく民間の事業者が生物共生型港湾構造物を検討する際にも参考にできる技術資料。 生物共生型港湾構造物の整備に向けて、利用段階・整備段階でのメリット、定義と分類、効果と費用、計画・設計・維持管理の実際とその関連事例を紹介。